

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	菜の花 清田館	評価実施年月日	平成19年5月16日
評価実施構成員氏名	伊東 浩一                      吉川 文加 久保 紀美子                村井 美弥子 宮川 芳子 遠藤 千紘 新沼 工		
記録者氏名	伊東 浩一	記録年月日	平成19年7月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>「地域とのふれ合いを大切にしたり暮らし」「住み慣れた地域での生活を「笑顔」で送れるよう支援する事を理念とし日々の生活の中に取り入れている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフルームに掲示され、意識付けを行ない、朝のミーティング時に理念を唱和し、実践できるよう取り組んでいる。名札の裏にも貼ってあり、意識の共有に努めている。</p>	○	<p>理念の唱和後に、理念にそった介護が出来ているかどうか、時折スタッフに確認をし、理念にそった介護が出来ているか振り返りをしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたり理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>理念を玄関に掲示し家族や地域の方の目に付きやすいようにしている。ご家族にも契約時に説明している。葉の花便りにも理念を記載し、理解をさらに深めていただく。</p>	○	<p>地区懇談会などを利用して、理念を地域の方に理解していただけるよう取り組んでいく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>朝のゴミだし、散歩、花壇の手入れの時などに笑顔で挨拶を交わし、お話をしたりしている。公園散歩時は小さなお子様やそのお母様とのふれあいもある。近所の知人がグループホームを訪問し、入居者様と一緒に茶を飲んでいただきながらお話・体操・ゲームなどに参加していただいている。</p>	○	<p>近隣の方が今場所の相撲の番付表をようやく手に入ったので高齢者の方に見せてあげてくださいと持参していただき、入居者の方と、一緒に草取りをしてもらえることもある。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に入会している。毎年行われる夏祭りには町内の方々の協力を得、沢山の方に参加していただいている。町内会一斉清掃に参加したり、道路の苗植え・ジンギスカンパーティーなどの行事などを通して地域とのふれあいを大切にしている。自治会の(区長を囲む地域フォーラム)に参加し、日常生活や介護状況を報告している。</p>	○	<p>6月30日の清田館主催の夏祭りにはボランティアとして町内に方が参加して下さった。さらに300名近くの地域の方々が来て下さり、交流を持つことができた。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>散歩時など地域の高齢者に挨拶したり、声をかけたりしている。地域の高齢者に、異変があった時、その家族に連絡したこともある。</p>	○	<p>実習生も積極的に受け付けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	評価結果をもとに全スタッフと検討し、改善に取り組んでいる。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	運営推進委員会を通して、町内の老人会に利用者様が参加できるような取り組みをしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	札幌市主催の管理者会議を利用して、疑問点・要望などを伝えていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	今後必要な入居者には、支援をしていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	○	職員のストレスに対するアンケート調査により職員の利用者に対する、表面には現れない感情や思いを把握することが出来た。全職員が「ご入居者に会うのが楽しみである。入居者の笑顔に喜びを感じている。」ことがわかりご入居者を大切に思っていることがわかった。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	○	医療が必要な方には何度も病院を訪問し、担当医師・ご家族と十分に検討、納得のうえ退去されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見・不満・苦情などあった場合、申し送りや、ユニット会議などで改善に向けての話し合いが行われている。家族の方とも相談している。	○	思いを伝えられないご入居者には、言葉や態度・表情から察する努力をしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者様の暮らしの様子は、家族が来訪された時や隔月にお便りでご入居者の状況報告をしている。また電話連絡、四季折々に手紙や年賀状、スタッフからのメッセージを差し上げ報告している。金銭管理においては、個人出納簿で出入金の内容を定期的に家族に郵送している。	○	職員の異動等を毎月の菜の花便りで紹介していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情受付の掲示をしている。家族様よりの意見苦情などはスタッフ・管理者・会社に伝えられ家族への早急な対応と改善に努めている。	○	家族会や運営推進会議の家族代表の方より、ご家族の意見を聞いている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に一度ホーム長・ユニット長リーダー会議が持たれ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられ、反映されている。職員全員にストレスにするアンケート用紙を配り、意見・希望・提案を聞く機会を設けている。	○	運営者・管理者に対して、日頃聞けないことをアンケート調査の中から把握し、運営に反映させていく取り組みを行っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の体調など状況により、必要な時間帯に職員の確保の話し合いを持って、勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	菜の花のグループホームは全6館あり自宅近隣へ希望され異動することもあり、配慮している。職員と3・4回食事会をおこなって、コミュニケーションを図り、離職を最小限に抑えるよう努力している。やむなく体調不良などによる離職者も利用者様一人ひとりに挨拶し、明るい雰囲気でのお別れを行っている。	○	異動・離職がやむおえないときは、利用者に対する引継ぎを徹底して行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>教育課がありスーパーバイザーにより、職員のレベルアップのための研修も活発に行われている。(全国認知症グループホーム大会、ケアプラン指導研修会、スタッフ研修会、高齢者に多い病気、緊急時の対応など。)ユニットごとに年間研修計画を作成し研修も行われている。働きながら、社会福祉士の通信教育で学んでいる者もいる。</p>	<p>○</p> <p>研修参加者は必ず復命書を書いている。伝達講習については、スタッフに負担がかからないように、報告会を行って行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>清田区グループホーム地区連絡会議が定期的に行われ、交流会・研修会・親睦会がもたれサービス向上にむけ取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>他グループホームとの見学や事例検討会等を多く実施して行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームがあり、休憩することが出来る。不定期ながら、食事会、親睦会も行われている。アンケートなどで、職員の意見を聞き、アドバイスしている。いつでも相談できる環境作りに努めている。事業部長も頻りにホームに来て相談に乗りアドバイスをしている。</p>	<p>○</p> <p>全職員に向け、ストレスに関するアンケート調査を実施した。その結果をもとに、ストレス軽減に向け検討中である。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>時給等資格に応じて昇給などがある。さらに人事考課を実施している。</p>	<p>○</p> <p>運営者や事業部長が頻りに訪問し、悩みを聞いたり業務の状況を把握している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人に入居前にお会いして、生き立ち・不安な事・どのように暮らしたいかなど気軽に話し合える機会を持っている。時にはグループホームの見学をしてもらい、納得後入居していただくこともある。</p>	<p>○</p> <p>いつでも体験入居できる体制となっているが、利用されていない。今後積極的に取り入れていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族様から生き立ち・病歴・不安なこと・どのように過ごしていただきたいかなどさまざまな情報を傾聴し、話し合う機会がもたれている。入居させたいが家族が忙しくて出来ないことについては、ホームと本社とで支援している。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の在宅での介護の大変さや悩んでいたことを、充分話せる環境作りをし、傾聴している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって、家族にとって最善の環境、サービスを本人・家族の立場に立って対応している。	○	ご家族とどうサービスにつなげる必要があるか、情報収集して時には他のケアマネージャーとも検討するよう努めていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	共同生活であるため、まず見学に来ていただき、一緒にレクに参加していただき、お茶を飲んでいただき、人間関係を築き、溶け込むことができるよう工夫している。	○	スタッフが自宅を訪問し、自宅での生活やご本人の部屋を見せていただきながらなじみの関係が築けるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日生活の中で職員本位にならないように一緒に生活をしている。食器ふき・掃除・庭いじり・読書・歌など一緒に行ない喜怒哀楽をともにし、学ばされる事も多く、学んだ事は職員同士で意見交換している。入居者様を人生の大先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。	○	職員は支援しているという意識を持たず、共に生活しているという視点を大切に穏やかな暮らしが出来るように声かけや場面作りをしている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にもホームの行事に参加をしていただき、共に過ごす時間を作るため一緒に食事をしたり喜怒哀楽を共にする事ができるよう支援している。家族来訪時は生活の様子をお話しし、気になっている事、家族の希望など話し合い、一緒に本人を支えていく関係が出来ている。家族会も実施し、希望や意向を聞いている。	○	あまり来訪されないご家族に外出やレク活動を機会に、共に過ごす時間が出来るよう促して行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族に隔月ごとに手紙を郵送し、日頃の入居者様の様子を伝えている。ご家族と居室内で楽しく過ごす事が出来るよう、お茶やお菓子を用意したり、良い雰囲気作りにも努め支援を行っている。	○	入居者の方のご家族への思いやメッセージを代筆したり、ご家族様と一緒に過ごせるよう、外出を勧めたり、ホームでの行事にも参加を促している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族の方にはできるだけ訪問していただき、さらに一緒に外出等が出来るようにお話している。お孫さんが頻繁に来てお話をされたり、飼い犬などご家族に連れてきていただき楽しく過ごされている。なじみの美容室や自宅にも家族と共に出かけている。	○	手紙・年賀状などが届いた場合は、利用者と一緒にお返事を出すようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、レク活動なども工夫をし、仲良く過ごせるよう座席に配慮している。入居者様同士が仲良く話し合えるよう職員が中に入り、さりげなく、支援をし見守っている。	○	ご入居者同士の関係がスムーズに成るよう、職員が調整役となり対応している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院され、退去されても、お見舞いに行ったり、家族へ電話などしている。	○	ご家族の状況を考えながら行事等の案内も出して行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望や意向を把握、ユニット会議などで情報を交換し、利用者様の立場になって考えている。共同生活する上で一人一人がどのような役割を担いたいのか、かつてしていた仕事・趣味などを考慮して、家事の手伝いをされている。困難な場合は本人の立場にたって検討している。	○	ご入居者が職員に伝えられないような思いや、日々の行動や表情、サインから把握するよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や生活環境・サービス利用経過を把握している。入居者様と関わった機関からの情報収集に努めている。家族様には入居時にセンター方式のAシートに記入をいただいている。	○	入居後も面会にいらした親類や知人からもそれとなくこれまでの生活歴について聞くようにしている。(個人情報をご考慮しながら、把握している。)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身の状態、有する力など、小さな動作からも感じ取るようにしている。さらに毎日の観察と記録、申し送りにより把握している。	○	センター方式を活用し、出来ることや出来そうなことを見極め、支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人ご家族より出された意見や意向を大切にしながら、毎月行われるユニット会議で、全職員で検討し、介護計画を作成している。	○	担当者がアセスメントと介護計画のモニタリングをし、カンファレンスの中で課題や介護サービスについてご家族やご本人の意向も含め、全職員で検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	入居者様の希望や家族様の要望があった際はその都度介護計画の見直しを行っている。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	飲水量・食事量・排泄状態・バイタルなどの身体状況および日々の生活の様子や言葉なども個別記録に記入し、実践に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	入居者の状況に応じて通院等の対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	継続的に来て下さるボランティアさんを募って行きたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	地域包括支援センターとの協働で地域周辺の情報交換をもっと強化していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の訪問診療を受けている。体調の変化時には、いつでも電話連絡がすぐ出来るようになっており指示や助言をもらっている。毎週ホームの看護師による健康管理が実施されている。	○	看護師が常勤しており、訪問診療の医師との連絡が密に取れている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	多くのグループホームを担当されている、訪問診療医師との関係を築きながら、気軽に相談し、指示や助言をいただいている。	○	認知症の専門医の受診が必要なときはその都度専門医師の診療を受けている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに看護師が常勤しており、常にご入居者の健康管理や状態変化に応じた支援が出来ている。廊下伝いにデイサービスもあり、そこに看護師が常駐しているため、ホームの看護師不在時相談することができる。	○	看護師が常勤されているので、ご入居者の状態変化に応じた支援をしている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、病院を訪問したり、医師・看護師と情報交換を行い、早期退院が出来るよう連携をとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合の対応指針の同意書をいただいている。病状により家族様の希望を考慮し医師・家族様・職員などで話し合いをし、方針を共有している。	○	終末期にはご家族・医師・看護師と話し合いを持ち、今後の介護につなげている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人やご家族の意向を踏まえながら、出来るだけホームで過ごしていただけるよう、チーム支援に取り組んでいる。	○	終末期のご入居者を支えるために、スタッフの資質を高めるための育成を図、りさらに他のご入居者への影響も考慮して対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメントやケアプラン、更に今までの生活リズムや支援内容などの情報を提供し、これまでの、暮らしが継続されるよう連携に努めている。</p>	○	<p>住み替えが必要になったとき、アセスメント・ケアプラン、日々の生活情報等を事業所に渡し情報交換していき、同じ介護を受けられるように対応したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様一人一人を、長い人生経験をもった大先輩として尊重、言葉かけや対応を心がけている。又言葉遣いについてユニット会議で話し合う事もある。個人情報には人目に触れないよう管理され、お互いのプライバシーに立ち寄りしないよう注意を払っている。</p>	○	<p>スタッフは入居者のプライバシーに関する事を、他者に他言しない事を厳守している。入職時個人情報の秘守義務について誓約書を交わしている。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>難聴の人にはゆっくりと話し、時には手紙にしたりして伝達している。食事の献立や、飲みたい物を選んでもらっている。又外出、着替えなど入居者様一人一人が希望したり、選んでもらえるような場面や対応を心がけている。</p>	○	<p>毎月行っている、外食についてはレストランよりメニュー表を事前にお借りして、ご入居者に見ていただき、食べたい物をご自分で決めている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様のその日の状態やペースや希望にあわせて柔軟に対応している。起床や入浴時間、食事にかかる時間などについて本人のペースで行えるよう対応している。リビングで自由に過ごしていただいたり、外出や散歩も本人の意向を必ず尋ねている。</p>	○	<p>一人ひとりの体調を観察しながら又ご本人の気持ちを大切に、ご入居者にあつた対応をしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者様の希望されるネックレス・ネイル・洋服を着られている。月1回の訪問美容を利用したり、本人の望んでいる美容室に家族と共に行かれてもいる。希望により、染めたり、パーマをかけ楽しまれている。</p>	○	<p>ご入居者が自分から決定できない方には、背景等を考慮しながら、出来るだけご入居者にそつた身だしなみの支援に努めている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>肉・麺が食べられない方には、他の食材を取り入れている。外食に行ったり利用者の希望を食材メニューに取り入れている、又必要時は栄養士と相談をしている。食事の前に嚥下体操を実施、スタッフも一緒に食事をし、食べこぼしや混乱をさりげなくサポート、食事状況を把握している。食後の後片付けや皿拭きもご入居者と一緒に行っている。</p>	○	<p>ご利用者と畑の収穫物を取ってきて、その日の料理に使用している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に希望を取り入れ、バラエティーの富んだ、手作りおやつを召し上がっていただいている。お酒やタバコを好まれるご入居者はいない。	○	職員は入居者様の嗜好物を把握しており、飲み物についても好きなものを飲んでいただいている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	常に排泄パターンや習慣を把握して声かけ対応している。排泄の時間を記入し、ご入居者にあつたトイレ誘導をしている。夜間はご入居者の状態により、ベッドサイドにポータブルトイレを設置して排泄して頂いている方もいる。	○	紙パンツやパットを使用しているご入居者様はいるが、オムツは使っていない。紙パンツを使用していたご入居者が布パンツになった。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの体調や状況を把握して、週に2~3回香り風呂を楽しんでいただいている。午前入浴午後入浴がある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自由に居室内のベッドや、リビングのソファや椅子で休憩を取られたり、眠られている。風邪を引かないよう巡回し、窓の開閉に気をつけている。個人の睡眠パターンや生活リズムを把握し、不眠傾向のある入居者様には夜間熟睡出来るよう、日中の活動支援を考慮して行っている。	○	眠れない方に対しては、コミュニケーションをとり温かい飲み物を飲んでいただいている。又無理に寝ていただくのではなく、ご本人の自由に任せている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や力を活用して、花壇の整理、掃除、食事の手伝い、食器拭き、洗濯物たたみ、新聞たたみなどを行い、自信を付けていただいている。散歩や歌なども楽しませられている。	○	畑の草取りや地域の行事にも参加し楽しませられている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小額のお金を持っている方もいるが、現金は金庫に保管し、買い物時は財布を入居者様に渡し、自由に買い物をし、支払いもしていただいている。皆さん買い物が好きなので近くのスーパーに職員と一緒に買い物に行くことが多い。	○	現在小額のお金も持っていないご入居者で希望の方は、今後ご家族と相談のうえ、紛失してもいい金額を持っていただくよう支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には気分転換を図れるように希望に沿って、散歩・買い物・畑に行き作物の状態を見に行っている。	○	近くの喫茶店に行って、ケーキと飲み物を楽しんでいる。またお弁当を持って外出することもある。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月行事の企画を立て希望に添って温泉・小樽・サーカス・花見に出かけたり、よさこいソーランなどの見学に出かけたりしている。	○	毎年海に行き、磯の香りを楽しんでいただき、昔を思い出しながら、小樽の新鮮なおすしを堪能していただいている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	四季の変わり目にご家族様へのお手紙、年賀状、電話の対応の支援をしている。	○	隔月であるがスタッフがご家族へ近況報告をしている。そのお便りの中にご本人が書けるメッセージの欄を作り、書いてもらうか、ご利用者様の声を代筆するようしていきたい。絵手紙を考えていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人が来られると入居者様の近況報告をしたり、湯茶の接待をして歓迎の雰囲気づくりをしている。時にはおやつや食事を一緒に食べていただいている。	○	面会時間は決まっておらず、ご家族の都合のよい時間に訪問していただいている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止の外部研修に参加している。また本社主催で研修会が持たれ、スタッフ全員が受講している。さらに、ユニット会議で勉強会なども行っている。介護新聞にも目を通し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	言葉による拘束がないか、職員間で確認しあっている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニット入り口のカーテンに鈴がついており、人の出入りがわかるようになっている。帰宅願望の強い方はスタッフと外出し、安心感を持っていただける対応をしている。職員は利用者が集まる場所でさりげなく記録をし、見守りをしている。	○	ご入居者の表情や状態をきめ細かく観察し、出かけそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ、散歩に出かけたり、自由にお過ごしできるような対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録をしながらさりげなく見守りをしている。又他の職員と連携を取りながら安全確認をしている。入居者の状況にあわせ、時間ごとに全利用者様の様子・所在を確認している。夜間も一時間ごとに巡回を行っている。	○	夜間帯は1時間ごとに巡回して、優先順位を考慮し、職員の居場所を決め、いつでも対応できるようにしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険なもの(薬・漂白剤)は保管場所を決めている。異食行為につながることもあるので、個人の状態に応じて配慮している。危険なときは保管している。家族にも充分説明している。	○	家族が持参したもので危険なものについては、ご家族に説明理解していただいている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応マニュアルを常備している。環境整理を行い、トイレの床に滑り止め用のマットを敷いたり、嚔下困難者には小さく刻んだり、時にはとろみを使用している。誤薬防止のため3回のチェックを徹底している。転倒など事故があったときは、インシデントレポートを提出し、都度ミーティングで事故の原因と対応について、再発防止に努めている。	○	緊急時に備えてイメージトレーニングの勉強会を実施し、事故防止に取り組んでいる。ひやりハットの報告書を活用し、事故にならないよう努めていきたい。インシデントレポートは本社にも提出、事故防止についての指導もある。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法の実践を日常的に把握できるように、スタッフルームに掲示している。救急救命講習会に職員が参加している。又ユニット会議でも急変時に対する勉強会をしている。	○	町内の消防署で行われている応急手当講習会に職員を参加させていく。本社主催の急変時の対応の研修にも参加している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の消防署の協力を得て防災訓練を行い消火器の使い方も実際に体験している。終了後講評があり、それをもとに、災害時活かせるよう検討会をしている。	○	運営推進会議で町内会長に災害時近隣者の協力が得られるようお願いしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある方には、ご家族様とも相談し、対応策を話し合っている。下肢筋力が低下しているご入居者に対しても、積極的に歩行訓練や散歩に出かけている。ご家族様にもリスクについても説明し、理解を得ている。	○	ご入居者の自立支援の大切さを含めてご家族に説明協力を得ている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行ない、身体状況や表情・行動・言動の変化を注意深く観察し、さらに水分食事の摂取量を把握している。異状に気付いた時は速やかにホーム長・ユニット長に連絡し、訪問医師より指示を受けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人ファイルに閉じられ、スタッフ全員が確認できるようにしている。変更時には連絡帳に記載され職員間で連携をとり、症状の変化の確認に努めている。	○	誤薬をしないために3回の確認を徹底している。薬を手にとったときの確認、薬の袋を破いたとき、飲ませようとするときは薬の袋に書かれている名前を読み上げる。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防と対応のため、栄養士の立てる献立、毎朝の牛乳・水分摂取の促し・散歩・体操・のの字マッサージ等を行ない、自然排便が出来るよう取り組んでいる。また排便状況を把握するため、排便チェック表を利用している。	○	食材の工夫はしているが、繊維の多い飲み物を取り入れていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食前のうがいと毎食後の口腔ケアは毎回実施している。入居者様の状況にあわせて必要な介助や支援が行われている。口腔ケアチェック表で磨き忘れがないようにしている。義歯の方も毎食口腔ケアを実施更に、夜間はポリデント洗浄をしている。	○	社内教育の一環として「口腔ケアの大切さ」について研修があり、スタッフ全員が受講している。訪問歯科より口腔ケアについてのパンフレットをいただき、勉強会をひらいた。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養バランスに配慮している。食事摂取量や水分量もチェック表により把握し、1日1000ml以上の飲水を促している。塩分制限のある方は薄味の味付けで、さざみ食・ミンチ食・とろみの必要な方には必要に応じて対応している。水分が足りない場合は、ゼリーなど作り対応している。	○	嚥下状態により刻みにしたり、食べやすい状態に工夫し食べていただいている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防対応として、入居者様、スタッフ全員が予防接種を受けている。利用者様・職員・家族様には常に石鹸での手洗いとうがいを励行している。アロクレーン・ピューラックを使用している。手が触れるところ・手すり・椅子・杖・ドアノブ・トイレ内・車椅子等は次亜塩素酸ナトリウムによる消毒清掃も1日3回行われている。感染症マニュアルも設置している。手拭タオルを廃止し、ペーパータオルを使用している。	○	特にインフルエンザやノロウイルスの流行期間は、マニュアルどおりに実施されているか介護部長のチェックと指導がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理前には台所・冷蔵庫など、調理後は布巾・まな板・包丁・冷蔵庫など塩素消毒を毎日行っている。食材も一日おきに、新鮮なものが配達され、食品の管理衛生に努めている。冷蔵庫内の整理・整頓、食材の賞味期限もチェックしている。	○	栄養士が定期的に、在庫管理と賞味期限のチェックに来ている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム敷地内に花壇を設置し、家庭的な雰囲気心がけている。玄関内にも季節的な絵や花・置物など明るく、気持ちよく安心して出入りが出来るよう心がけている。	○	大きくて見やすい表札を取り付けた。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れ、ご入居者と桜もちをつくったり、手作りの作品や絵などの飾りをして工夫している。明るく清潔であり、入居者様が落ちついて過ごせるような空間が作られている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用食卓テーブルを囲み入居者同士での談話・ゲームを楽しまれている。またソファでは昼寝やテレビを見ながら談笑されたり、カラオケを楽しまれたりしている。和室においても洗濯物をたたまれたり状況にあわせて過ごせる場所が確保されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた生活用品・タンス・ベッド・ジュタン・仏壇・電子ピアノなどが持ち込まれている。写真など思い出の品物も持ちこまれて、落ちついて過ごせる環境に工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	自動換気装置が稼働している。温度計や湿度計はご入居者の様子を見ながら、温度調節をこまめに行っている。加湿器・エアコンなども設置されている。	○	換気口の清掃を定期的に行っている。よどんだ空気にならないように空気の入れ替えを行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常に安全を考えバリアフリー対策が実施されている。床はじゅうたんを敷き廊下・リビング・トイレ・浴室にも手すりが設置され、安全確保と自立への配慮をしている。洗面台も車椅子が使用できるようになっている。	○	入居者の方が作業しやすいように、物干しの高さを自動調節できる物にしている。車椅子でも利用できる広いトイレがある。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者様のお部屋には名前と似顔絵を描いた表札が張られている。リビングに時計・手作りのカレンダーを設置している。自立度の違いから一人ひとりにあったレクレーション活動とコミュニケーションが図れるように工夫されている。	○	一人ひとりの何がわかりにくいのかをしっかりと把握し、状況に応じて対応している。特に居室を間違える入居者様には、氏名を大きく書いてわかりやすくしている。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1階のベランダを利用し、利用者様が外を眺めたり、天気の良い日は、ベランダにて日光浴として楽しまれている。花壇・畑に行き、作物やお花など見たり作ったり楽しまれている。	○	畑に行き、草取りや収穫をし、楽しめる環境がある。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている  <input type="radio"/> ②少しずつ増えている  <input type="radio"/> ③あまり増えていない  <input type="radio"/> ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

午前の吉幾三体操とティータイム、午後のパワーアップ体操とおやつを通してコミュニケーションを図っている。階段の上り下り、デイサービスまでの歩行により下肢筋力の向上、晴れた日は公園までの散歩を実施している。おいしいお食事・ゆとりある介護・笑顔のある暮らしに力を入れて介護しています。毎月行事計画を立て、車数台にて、外出したり食事に行ったり、歩行困難な入居者様も全員参加され楽しませている。行事を通して社会的交流を持っている。